

令和6年度

暮らしやすく住みやすいまちづくりアンケート実施報告書

1. 概要

住民の福祉向上や子育て世代のご家庭の働きやすさ、暮らしやすさ、様々な年代の方々の住みやすさを実現するための施策づくりに役立てるため、令和6年6月1日現在で、15歳以上の各世代の方の中から無作為抽出した3,500人を対象にアンケート調査を実施しました。

2. アンケートの実施方法

(1) 対象の設定・抽出方法

市内各年代の男女125名ずつの250名（令和6年6月1日現在）

(表1)

	男	女	計	抽出対象者	割合
15～19	575	497	1,072	250	23.3%
20～24	414	430	844	250	29.6%
25～29	365	323	688	250	36.3%
30～34	437	369	806	250	31.0%
35～39	577	539	1,116	250	22.4%
40～44	639	580	1,219	250	20.5%
45～49	778	709	1,487	250	16.8%
50～54	819	750	1,569	250	15.9%
55～59	702	696	1,398	250	17.9%
60～64	783	817	1,600	250	15.6%
65～69	1,012	967	1,979	250	12.6%
70～74	1,164	1,259	2,423	250	10.3%
75～79	973	1,028	2,001	250	12.5%
80～	633	899	1,532	250	6.1%
計	10,661	11,643	22,304	3,500	

(2) 調査方法

暮らしやすく住みやすいまちづくりを進めるために必要な、今後取り組んだらよいと思う事業の必要度の選択、その他自由記載にて回答

令和6年度 暮らしやすく・住みやすいまちづくりアンケート調査

新たに確保した財源を基に、次のような事業を検討しています。事業実施についてあなたのお考えに近いものを、各項目ごとに1～5の中より1つ選んで○をつけてください。

今後取り組んだらよいと思う事業の必要度

項目		必要度				
		強く思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない
1	医療・介護や福祉サービスの充実	5	4	3	2	1
2	妊婦・産婦や赤ちゃんにやさしい支援の充実	5	4	3	2	1
3	外出や買い物などの交通弱者の移動を支援する取り組み	5	4	3	2	1
4	子育て支援の充実や教育に関する経済的な負担軽減に関する取り組み	5	4	3	2	1
5	女性の参画に配慮した子育て・介護・就労の支援に関する取り組み	5	4	3	2	1
6	子どもの教育環境の向上に関する取り組み	5	4	3	2	1
7	市内の学び場確保のため、高等学校の存続支援に関する取り組み	5	4	3	2	1
8	定住者の増加のため定住に関する補助・給付制度の拡充	5	4	3	2	1
9	空き家の適正管理や有効活用に関する取り組み	5	4	3	2	1
10	優良な分譲住宅地の供給や公営住宅等の新たな住環境の整備	5	4	3	2	1
11	若者の雇用の創出や就労を支援する取り組み	5	4	3	2	1
12	看護師や介護福祉士等の人材の確保に関する取り組み	5	4	3	2	1
13	市民誰もが遊び汗を流せる公園の整備	5	4	3	2	1
14	市民が利用しやすいスポーツ施設の整備	5	4	3	2	1

3. 結果

(1) 回答の状況

①調査期間 令和6年6月22日から令和6年8月31日（※期間の延期を実施：当初締切日 8/20）

②回答数 976件（うちインターネット回答249件（全体の25.5%））

男性 412件、女性 564件

③回答率 全体 27.9%、男性 23.5%、女性 32.2%

（前回 回答率 全体 36.7%、男性 37.3%、女性 36.1%）

表2が男女別、年齢別の回答数と回答率です。調査件数については、前回実施したアンケートと同数の3,500件であり、回答率は27.9%と前回との比較で8.8%減少しました。今回のアンケートの回答率は10代では前回実施したアンケートと比較して30.4%から14.4%に減少するなど、どの年代も増加している年代はなく、特に50歳までの年代が10%前後の減少率となりました。

インターネット回答は全体で249件という回答数であり、49歳以下では、回答数のうちインターネット回答の占める割合が平均50%を超えており、前回の30%よりかなりの増加となりました。また、69歳以下までインターネット回答が増加している結果となり、高齢者のスマートフォンの利用がうかがえますが、紙の調査票での回答が大半となり、今後もインターネットと紙の併用、または年代別で調査方法を変更するなど検討が必要と感じられました。

年代別回答数・回答率集計表

年代	送付数（通）			回答数（件）			回答率（%）			インターネット回答数（件）			インターネット回答率（%）		
	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体
10代	125	125	250	16	20	36	12.8%	16.0%	14.4%	9	17	26	56.3%	85.0%	72.2%
20代	250	250	500	33	47	80	13.2%	18.8%	16.0%	19	28	47	57.6%	59.6%	58.8%
30代	250	250	500	38	57	95	15.2%	22.8%	19.0%	17	25	42	44.7%	43.9%	44.2%
40代	250	250	500	42	63	105	16.8%	25.2%	21.0%	20	31	51	47.6%	49.2%	48.6%
50代	250	250	500	68	96	164	27.2%	38.4%	32.8%	26	21	47	35.3%	21.9%	28.7%
60代	250	250	500	91	127	218	36.4%	50.8%	43.6%	14	14	28	15.4%	11.0%	12.8%
70代	250	250	500	88	118	206	35.2%	47.2%	41.2%	3	4	7	2.3%	3.4%	3.4%
80代以上	125	125	250	36	36	72	28.8%	28.8%	28.8%	0	1	1	0.0%	2.8%	1.4%
計	1750	1750	3500	412	564	976	23.5%	32.2%	27.9%	108	141	249	26.2%	25.0%	25.5%

【集計表】 年代別・世代別回答数・回答率集計表

(2) 問1～18項目の結果

問1～18項目では、取り組みの必要度を5段階に設定し「強くそう思う」+2点、「そう思う」+1点、「どちらともいえない」0点、「あまりそう思わない」-1点、「そう思わない」-2点の加点・減点方式により算定した得点で順位を決めました。

【集計表一覧】

- ・全体集計表 …アンケートの回答数と、それを基に算出した得点・順位をあわらした表
- ・年代別得点表 …算出された得点を10歳刻みの年代でまとめた表
- ・年代別得点率表…「年代得点表」を年代毎に得点割合を算出した表
- ・世代別得点表 …アンケートを求めた15歳以上の年齢を心理学者エリクソン氏が提唱した心理社会的発達理論「エリクソン発達段階」を参考に、4世代に分け集計した表
- ・男女別集計・得点表 …男女別の集計表と得点表
- ・地域別得点表 …地域別の得点表

多くの項目で肯定的な意見が多い結果となりましたが、「高速道路をはじめとした道路網の拡充整備」、「優良な分譲住宅地の供給や公営住宅等の新たな住環境の整備」、「市民が利用しやすいスポーツ施設の整備」、「文化財の保存・活用に関する取り組み」、「市民誰もが遊び汗を流せる公園の整備」では、そう思うの意見が多く、新しく施設を整備する内容の項目が下位となっている。

得点の高かったものから順番に、「医療・介護など福祉サービスの充実」、「外出や買い物などの交通弱者の移動を支援する取り組み」、「妊婦・産婦や赤ちゃんにやさしい支援の充実」、「若者の雇用の創出や就労を支援する取り組み」、「看護師や介護福祉士等の人材の確保に関する取り組み」と続き、以上のとおりとなりました。

(3) 問19項目の結果

この項目には延べ495件のご意見をいただきました。分野別や用いられた用語により分類し集計しているため単純な比較は出来ませんが、分類ごとにまとめたものが次の表となります。

回答分類	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
政策全般	82	1	2	17	10	13	12	17	10
移動手段	70	3	1	9	9	5	17	19	7
若者・子育て	58	3	5	7	7	6	18	10	2
公共・商業施設	58	0	2	8	5	14	9	13	7
高齢者支援	54	0	0	6	4	6	13	20	5
観光	37	1	1	4	3	6	10	8	4
空き家・空地利用	29	1	0	1	4	3	8	7	5
医療	24	1	0	4	0	9	7	3	0
就労関係	16	2	2	2	0	3	2	2	3
防災・防犯	10	0	0	0	2	4	4	0	0
その他	57	1	3	5	6	10	13	13	6
計	495	13	16	63	50	79	113	112	49

「政策全般」の分類の詳細については、「人口減少の改善」に関する意見が17件と最も多く、現在の美作市が抱える人口減少への不安が意見として反映されています。また、意見の中には、近隣の市町村の政策を比較された意見も多くみられました。

「移動手段」の分類については、「問3.外出や買い物などの交通弱者の移動を支援する取り組み」の必要度調査においても、関心の高い結果となっています。主に医療機関や買い物への交通手段について、公共交通機関の整備など、多くの意見が寄せられました。また、高齢者の免許返納後の交通手段の確保について心配する意見も見受けられました。

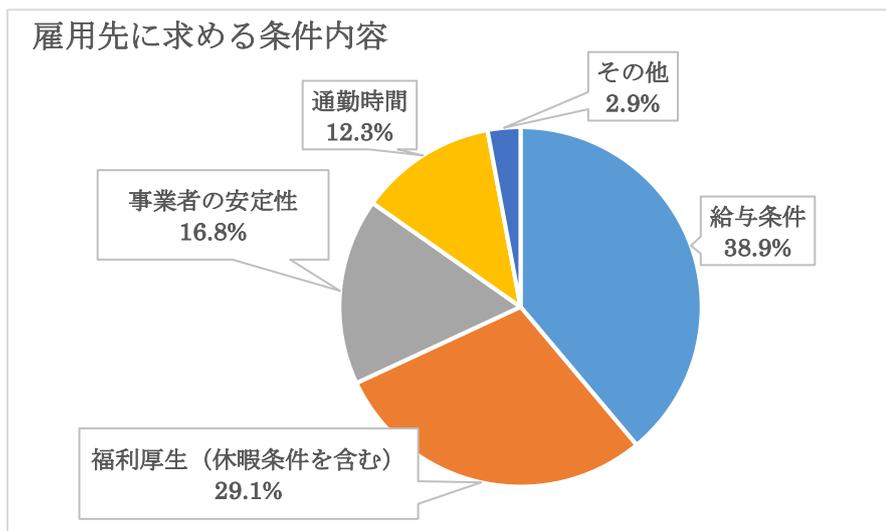
「若者・子育て」の分類では、子どもの遊び場や、子育て世代へ経済的な支援、子育てをしやすい環境整備など、多くの意見がありました。また、若者の定住のため働きやすい環境や魅力あるまちづくりを求める声が多く寄せられました。

「公共・商業施設」の分類では、大型店舗やドラッグストアなど大型の商業店舗の誘致に関する意見や現在の買い物に対する改善を求める意見等が多く寄せられました。また、文化センターの新設や図書館の充実など文化施設の改善を求める意見がありました。

「高齢者支援」の分野では、生活環境の改善を求める意見が多く、高齢者が住みよい環境を要望するものが多くみられました。他には地区の高齢化が進み役員の担い手不足の意見もありました。また、介護施設やサービスの充実を求める意見も多くありました。

上記の項目以外でも多くのご意見をいただいております。ありがとうございました。いただいたご意見は庁内で共有し、今後の政策立案に活用させていただきます。

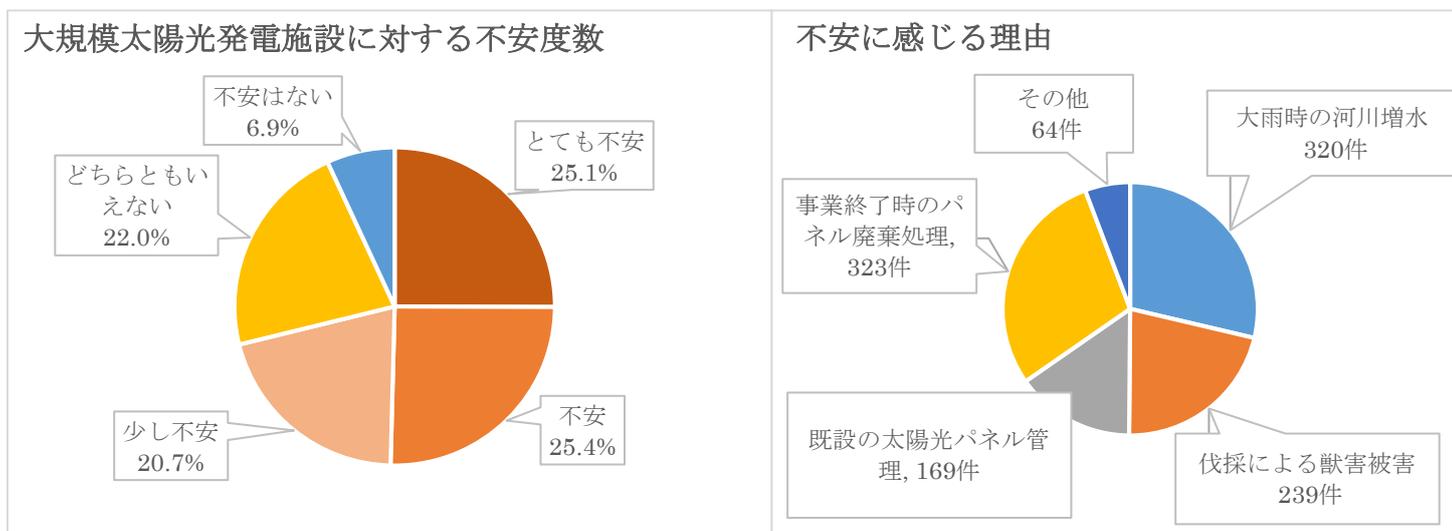
(4) 問20 「就職先や、仕事を続けていくために重視している(た)ものを教えてください」の結果



通勤時間 (分)	計 (件)	備考
~14	10	概ね 10km
15~29	58	
30~44	110	概ね 30km
45~59	7	
60~74	10	概ね 50km
75~	1	
計	196	

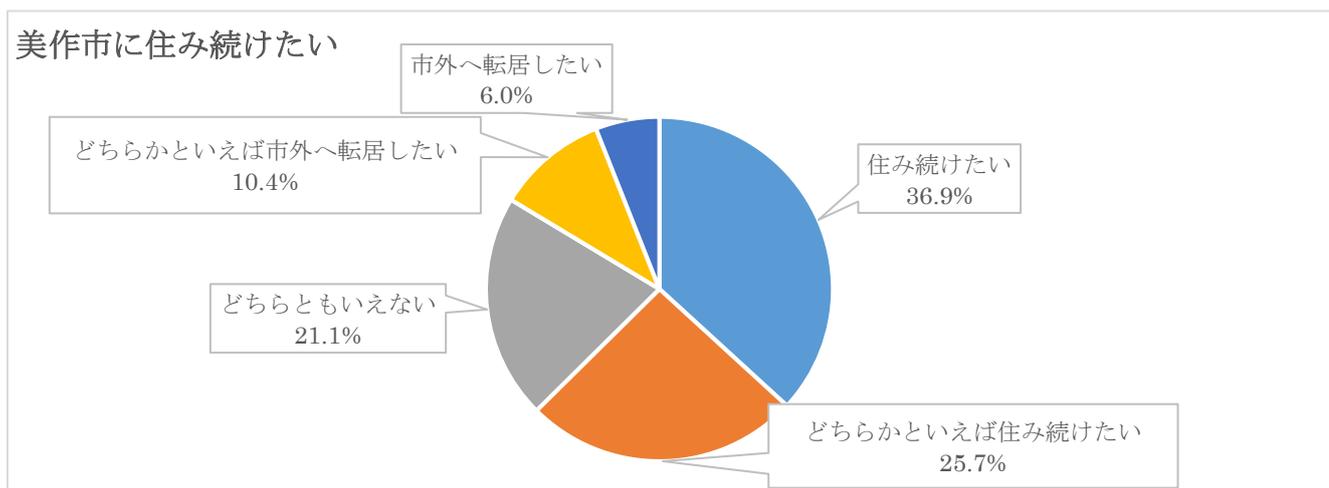
【集計表】 問20 アンケート結果

(5) 問21 「大規模太陽光発電施設に対する不安度を教えてください。」の結果



【集計表】 問21 アンケート結果

(6) 問22「今後も美作市に住み続けたいですか教えてください。」の結果



地域別回答率	計	勝田	大原	東粟倉	美作	作東	英田
住み続けたい	359	35.6%	32.2%	21.2%	40.6%	37.0%	34.1%
どちらかといえば住み続けたい	250	23.3%	25.2%	36.4%	24.0%	26.9%	29.7%
どちらともいえない	206	25.6%	21.7%	24.2%	18.3%	23.6%	22.0%
どちらかといえば市外へ転居したい	101	13.3%	13.3%	15.2%	9.8%	7.2%	11.0%
市外へ転居したい	58	2.2%	7.7%	3.0%	7.3%	5.3%	3.3%

	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代~
住み続けたい	359	8.3%	13.9%	21.3%	28.6%	32.3%	42.2%	50.0%	65.3%
どちらかといえば住み続けたい	250	25.0%	38.0%	35.1%	24.8%	26.2%	22.0%	24.3%	15.3%
どちらともいえない	206	30.6%	21.5%	24.5%	25.7%	21.3%	22.0%	18.0%	11.1%
どちらかといえば市外へ転居したい	101	16.7%	13.9%	11.7%	13.3%	10.4%	11.0%	6.3%	6.9%
市外へ転居したい	58	19.4%	12.7%	7.4%	7.6%	9.8%	2.8%	1.5%	1.4%

転居したい理由 (複数回答可)	回答数
交通の便が悪い	79
買い物・飲食など消費生活が不便	73
医療・福祉が不十分	46
働く環境が整っていない	45
愛着がない	37
近所や地区の付き合いなどがある	30
子育てや教育環境が整っていない	20

【集計表】 問22 アンケート結果

※問20～22、ご回答ありがとうございます。今回のアンケート結果を今後の施策の参考とさせていただきます。

4. 総括

今回のアンケートでは様々な分野の政策に対する必要度調査と、より具体的な事案に対する調査させていただきました。

この調査により各年代や地域により求められている施策、地域や年代関係なく求められている施策が数字やご意見としていただいたことは、美作市の今後の政策を検討していく上で、大変貴重な判断材料とさせていただきます。

アンケート項目以外でも多くの自由意見を得ることができ、アンケート項目の結果に加え、自由記載欄でいただき貴重なご意見を元に、今後の政策の立案に活用させていただくこととします。